

水・草・家畜からみた遊牧システム

モンゴル国首都近郊牧畜民の事例から

児玉香菜子

千葉大学文学部

1. 宇宙から見たモンゴル高原

2. モンゴル高原の自然環境と社会環境

(1) 自然環境：乾燥と寒冷

表 1 モンゴル高原と日本の降水量と平均気温

	ウランバートル	フフホト	東京
年平均降水量	270mm	402mm	1467mm
年平均気温	-1.3℃	6.1℃	16.1℃
月別平均：1月	-22.3℃	-13.1℃	6.1℃
月別平均零下月数	7ヶ月	5ヶ月	無し

(2) 社会環境

表 2 モンゴル国と中国内モンゴルの概要

	モンゴル国	中国内モンゴル自治区
面積	約 156 万 4,100 km ² (日本の約 4 倍)	約 118 万 3,000 km ² (3 倍)
人口	286 万人 (2012 年)	2,498 万 (2013 年)
民族	モンゴル族 250 万人 (95%) ほかカザフ族	モンゴル族 429 万人 (18%) ほか漢族
首都	ウランバートル市 人口：122 万人	フフホト (呼和浩特) 市 人口：227 万人 (2009) 民族：モンゴル族 20 万人
年降水量	100mm～400mm	50mm 以下～500mm
体制	共和制(大統領と議院内閣制の併用)	社会主義(中国共産党一党独裁)
産業	牧畜業、鉱業	農業、牧畜業、林業、鉱業
1 人あたり GDP	3673 ドル(2012 年)	9116 ドル←中国一
宗教	仏教	仏教

表3 モンゴル国と中国内モンゴルの社会体制

	モンゴル国	中国内モンゴル自治区
社会主義化	1924~ モンゴル人民共和国 ↓	1949~ 中華人民共和国 1958 人民公社化 ↓
市場経済化	1990s~ モンゴル国、ポスト社会主義 ↓	1980s~ 社会主義市場経済 ↓

3. モンゴルの牧畜

(1) モンゴル文化の本質は牧畜＝遊牧

司馬遷『史記』 「匈奴列伝」

—北方の未開地域に住み、家畜を放牧しつつ転々と移動した。…水と草を追って移動し、城郭とか定まった住居はなく、耕作に従事することもなかった。

- ・ 遊牧の基本要素：水＋草＋移動、家畜、人（労働力）
- ・ ここでいう水とは？—家畜の飲用水、草とは？—家畜の“食料”

(2) 草＋水＋移動

- ・ 草：四季、夏雨型・夏暖、冬寒→草の生長期：5月－8月
- ・ 水：井戸、川、季節河川、雪
- ・ 移動
夏、秋：草（生長分） —平原（低い、開放的） →水場、涼
冬、春：草（利用されずに残った分） —丘陵（高い、山の南斜面） →雪、暖

(3) 家畜利用

表4 家畜利用

利用 家畜	肉	皮革	ミルク	毛	騎乗	運搬	燃料
ヒツジ	○	○	○	○	×	×	○
ヤギ	○	○	○	○	×	×	○
ウシ	○	○	○	×	×	○	○
ウマ	○	○	○	×	○	○	○
ラクダ	○	○	○	○	○	○	○

○：利用あり、×：利用なし

(4) 人=労働力

4. 現代的变化

(1) 家畜利用の変化

表5 遊牧民家族の家畜利用一例（2011年8月）

	家畜数		搾乳	肉		畜産品		騎乗	運搬	燃料
		子畜		自給	販売		売却			
ヒツジ	300	105	×	○	○	羊毛	○	×	×	×
ヤギ	170-180	48	×	○	○	カシミア	○	×	×	×
ウシ	16	6	○	○	×	皮革	×	×	×	×
ウマ	35	5,6	○	○	×	皮革	○	○	×	○
ラクダ	-	-	-	-	-	毛	-	-	-	-



: 変化

(2) 近代的消費財の導入、不動産の購入

- ・テレビ
- ・自家用車
- ・冷凍庫
- ・都市部のマンション

←家畜・畜産品販売による収入